

かボツツと出来てすぐ消えたというように簡単にかるく考えられがちであるが、私達は幼穉遊戯場にもつと重要な意義を認めつつある。

重要な意義の原動力になるのは、皇居が明治二年京の地を離れることになったので、京都の人々が新たな発展の分野を教育振興ということに求めたことである。きわめて長いあいだにちちかわれた都びとの底力と文化的な教養が教育熱ということにあらわれ、そのあらわれの一端が幼穉遊戯場であると見たのである。ここは女子師範学校のように政府によって作られた（したがって別に東京でなくても出来た）ものでなく、民衆の自然の力がみられており、現在わが国の大多数を占める私立幼稚園の開拓者という意味をもっている。

それどころか、私は先ほど京都の人々の教育熱のあらわれの一端<sup>へ</sup>だと言ったが、偶然あらわれた単なる一端でなく、その最も高い峯であり、あらわれるべくしてあらわれたものであるということである。すなわち、明治初期の京都の人びとは、自分たちの民意をより上げて、これを組織し、制度化することがうまかったのであるが、このようにして京都に早くから東京府に先んじて小学校をつくっている。

なかでも柳池校は鳩居堂の主人が計画して組内の少年を集めて小学、三字経、論語、日本外史等を教えていたのがもとになり、明治二年五月二十一日に上京第二十七番組小学校として文部省の開設や政府の教育奨励に先立って出来た我が国最初の小学校である。これは、四書五経心学道話などを教えていたことから随分古いことが分るのであるが、この我が国最初の小学校はさらに明治六年には女紅場<sup>にやうば</sup>をもうけたり、役場を学校の一部につくるなど、庶民教育の総本山となろうとしたことが察せられる。

ここに、京都市民のエネルギーの結果として、いわば下から盛り上った、しかも一般大衆の庶民教育として我が国のモデルスクール

となろうとした学校があらわれたわけである。そしてこの学校が、ゼルマン地方には大小学のほかに学齡未滿の幼児のための幼稚園がつくられているから、自分たちの学校でも当然これに注目して幼稚園教育をするべきではないかという考えで、我が国ではじめて幼穉遊戯場を開設している。

このように、我が国最初の幼稚園である幼穉遊戯場は偶然早く出来たというようにものでなく、京都市民の大きな理想のあらわれとして出来たものである。

## 大阪市における

### 初期幼稚園発生の系譜

水野浩志

大阪市における幼稚園発達史は誠に我国幼稚園発達史を物語る一つの典型である。その意味において、ここでは大阪市の幼稚園教育が特に公立を中心として発展していった原因を尋ねながら、初期幼稚園が設立されるに至った系譜を保姆養成との関連において考察する。

大阪市に幼稚園教育の発展をもたらした根本的原因の一つは、為政当局者が他府県に先がけて、幼児教育に関心をもち、明治十二年に府立模範幼稚園を設立したことである。

当時の府知事渡辺昇は我国幼児教育の先覚者関信三とは親交があり、また関信三が大政官牒者として活躍していた頃の上役でもあっ

た関係もあり、関信三が東京女子師範に我国最初の幼稚園を始めた事に非常に興味をもつとともに、当時の文明開化の風潮にも影響され、大阪にも幼稚園なるものを普及しようとしたのである。そこで先ず氏原銀・木村末の二人の小学校教員を東京女子師範保母練習科に府費をもって派遣留学させ、帰阪するや直ちに府立模範幼稚園を開園し、幼児教育の模範を示すと同時に、保母見習生を置いて保母の養成につとめ、漸次市内各区に幼稚園を設立普及させようとしたのである。

府立模範幼稚園が開設されるや大阪市東区内においては、進歩的な有志が相寄り相はかって町立幼稚園を設立することを議決し、山片曾子・巽勢以の二名を町費を以て模範幼稚園の見習生として派遣した。かくて翌明治十三年五月東区の町立幼稚園として愛珠幼稚園が開園された。愛珠幼稚園は初めは模範幼稚園から保母を得たが、翌十四年からは首座保母を東京女子師範卒業生から迎え、模範幼稚園と相並んで保母見習生の養成に当った。明治十九年からは正規の保育伝習所を併設し、二十二年からは市立高女附属保母養成所を同園内に置いて保母の養成にあたり、その卒業生を以て東区内は勿論のこと市内各区に幼稚園が開設されるに至ったのである。

府立模範幼稚園は府当局者の幼児教育振興策のあらわれであったにもかかわらず、当時の一般社会にはまだまだ幼稚園に対する認識が浅く、府費によって幼稚園を経営することが次第に困難となり、渡辺府知事もその職を去り、遂に明治十六年府会により模範幼稚園の存続は否決され同年六月廃園されるに至った。

しかしながら模範幼稚園の首座保母氏原銀は同園保護者有志の強力な協力の下に、私立中州幼稚園として実質的にはこれを存続させたのである。

翌十七年には文部省より幼稚園に関する訓令が発せられ、学令未満の幼児が小学校で学令児童と同じ教育を受けることが禁ぜられ、幼稚園に通わせて保育を受けるようにすべきこと、ならびに幼稚園の編制は完全な規模のものでなくとも、小学校々舎の一部を利用して簡易の編制でも差支えない旨が通達された。ここにおいて俄かに教育社会に幼稚園設立の必要性が痛感されるに至り、大阪市においても幼稚園の設立を要望する者が多くあらわれ始めた。当時大阪の東区には公立の愛珠幼稚園があり、保母の養成もはかり、区内に幼稚園を新設するにはこと欠かない事情にあったが、その他の区では容易に保母も得られなかった。

そこで西区ならびに北区では先ず区内に横範となるような一園を設立し、そこで見習生を養成し、その卒業生を以て区内各所に幼稚園を設立しようとして企てたのである。その為に西区と北区は府立模範幼稚園の実質的な後継であるところの私立中州幼稚園の譲り渡しを要求して相争ったのであるが、結局西区は北区にこれを譲り、ただ保母、膳たけ(氏原銀の令妹)一名を譲り受け「公立西区幼稚園」を別に開園し、北区は中州幼稚園を区費を以て譲り受け「公立北区幼稚園」と称したのである。かくて両園は幼稚園教育の模範を示すかたわら二十六年まで保母の見習生を養成し、その卒業生を以て区内各所に幼稚園を開設したのである。

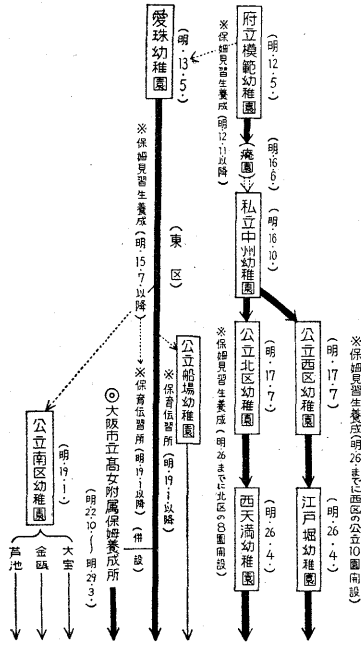
このようにして大阪市においては明治十七年に東・西・北の三区に公立モデル幼稚園各一園ずつもつこととなり、それぞれ保母養成をしながら次第に公立幼稚園、或いは小学校附設幼稚園の開設を促進していった。(明・18には公立幼稚園七、私立二、小学校附設幼稚園四)

更に明治二十五年十一月には大阪市は告示を以て「尋常小学校設

置負担区を幼稚園負担区と為す」の件を規定し、小学校附設幼稚科の設立を促した。この規定は、他府県に例を見ない革期的告示であり、大阪市に公立幼稚園発展の基盤を作ったものといえる。同年末には公立八園、私立二園、小学校附設幼稚科三〇園を数えるに至った。その後幼稚科は皆独立し、明治三十年には公立四〇園、私立二園、となり、旧大阪市の当時の三十九学区中の大半に公立幼稚園が設立されるに至ったのである。

このように見てくると明治期における大阪市の幼稚園の発生経路は、実に府立模範幼稚園に端を発し、そこから公立幼稚園が派生し、当局者の割合積極的な振興策によって普及発達していったものと見ることが出来る。

殊に大阪市では常に幼稚園の普及発達のためには先ず保母を養成せねばならぬとの立場に立って、公立モデル幼稚園に保育伝習所を併設させ、或いは市立高女附属保母養成所を開設し、或いは府立師範



女子部に保母講習科を併設するなど、常に公費による保母養成に意を用いたことも大阪に公立幼稚園を發展させた有力な一因ということが出来る。

また全国にきぎかけて、強力な保育研究団体としての三市連合保育会が明治三十一年には結成され、その総会の開催にあたっては、市当局が積極的にこれに協力し、小学校長・園長の公費出張による参加を命じたり、知事・市長・視学等の参加講演による激励など、明治期における京阪神三市の為政者の幼児教育振興に対する協力も見逃すことは出来ない。

そのほか京阪神という地域のもつ歴史的伝統的特殊性や、三市連合保育会の強力かつ積極的な活躍や、フレールベル主義保育の普及者としてのエー・エル・ハウ女史の関西保育界に尽くした貢献等々相まって、関西保育界をして当時我国で最も幼児教育の盛んな所と定評づけられる程の發展をなさしめたのだということができよう。

## 明治三十年代の 保育内容について

村山 貞雄

明治時代の保育内容がどのようなであったかということは、保育史の共同研究中、もっともウィーク・ポイントであつて、わたしたちもこの点にかなり努力してみた。

明治時代の保育の内容について実状を知ることとは、それ自